

【 常に福に代えて 】

わがたましいよ、タボル
我 靈 神 女 爾 産 不 朽

ざんにこうえいをあらわしし
山 光 榮 顯

しゅをほめあげよ。
主 讚 揚

しょうしんぢょよ、なんぢのさんはふきゅうなり
生 神 女 爾 産 不 朽

かみはなんぢのはらよりいでちじょう
神 爾 腹 出 地 上

ににくたいあるものとあらわれて、ひとと
肉 體 者 現 人

ともにいませり、ゆえにわれらみな
偕 在 故 我 等 皆

なんぢをあげめほむ。
爾 崇 讚 慕

【 領聖詞 第 88 聖詠 】 ※繰り返し歌う



句) わ^{たて}が盾は主^{しゅ}よりし、わ^{おう}が王はイスライリの^{せい}聖なる者^{もの}よりす。

句) 昔^{むかし}爾^{なんぢ}異象^{いしょう}の中に於て爾^{なんぢ}の聖者^{せいしゃ}に謂えり、我^{われ}勇者^{ゆうしゃ}に助^{たすけ}を顯し、民^{たみ}
より選^{えら}ばれし者^{もの}を舉^あげたり。

句) われわ^{ぼく}が僕^えダヴィドを獲、わ^わが聖膏^{せいこう}を以て之に膏^{もつ}せり。

句) わ^てが手恒に彼^{かれ}と偕^{とも}にし、わ^わが臂^{ひぢ}彼^{かれ}を固^{かた}めん。敵^{てき}は彼^{かれ}に勝^かたず、不法^{ふほう}の子^こは彼^{かれ}
を害^{がい}せざらん。

句) われそのま^{まえ}に於て其^{おい}敵^そを破^{てき}り、彼^{やぶ}を疾^{かれ}む者^{にく}を撃^{もの}たん。

句) わ^{しん}が眞實^{じつわ}わ^{じれん}が慈憐^{かれ}は彼^{とも}と偕^{そのつ}にし、其^わ角^なはわ^よが名^{あが}に縁^{えん}りて舉^あらん。

句) われそのて^{うみ}を海^おに置き、其^{そのみぎ}右^ての手^{かわ}を河^おに置かん。彼^{かれ}我^{われ}を呼^よびて云^いわん、爾^{なんぢ}は我^わ
が父^{ちち}、わ^わが神^{かみ}、わ^わが救^{すくい}の防^{かため}固^こなり。

句) われかれ^{ちようし}を長^ち子^{しよ}となして、地^ちの諸^{しよ}王^{おう}より高^{たか}くせん。我^{われ}彼^{かれ}の爲^{ため}に永^{なが}くわ^わが憐^{あわれみ}
を護^{まも}り、わ^わが彼^{かれ}と結^{むす}びし約^{やく}は眞^{まこと}ならん。